外務省がロシアに対する危険情報を一部改訂

やむを得ない事情での渡航は妨げない！

日本外務省は、9 月 12 日付けで、ロシアに対する海外危険情報の内容を一部改訂しました。今回の改定では、ウクライナとの国境周辺地域を除く地域（モスクワ市を含む）について、レベル３（渡航中止勧告）は維持するものの、「ただし書き」の内容を変更しました。

事情があればロシア渡航・滞在を妨げない

改定後の危険情報では、「ただし、真にやむを得ない事情がある場合には、以下※を除く地域（モスクワ市を含む）に渡航・滞在することを妨げませんが、その場合には、特別な注意を払うとともに、現地の日本大使館または日本総領事館と密接に連絡を取り、十分な安全対策を講じてください。」となっています。

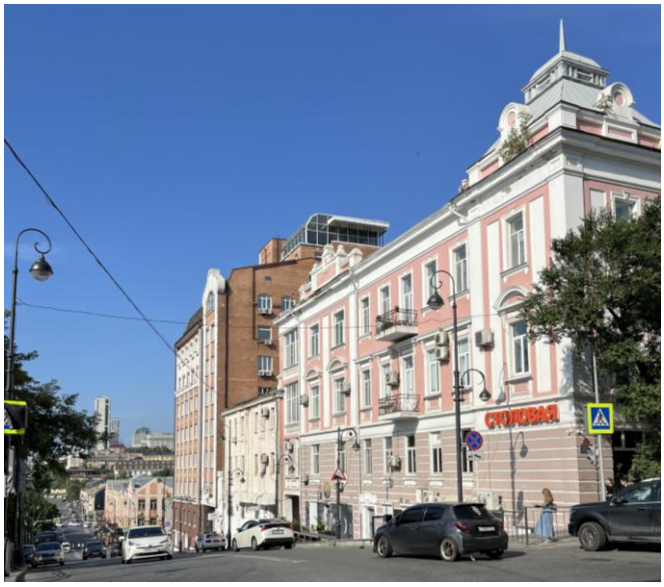
注※で示されている地域＝ウクライナに隣接するブリャンスク、クルスクなど５州および北カフカスの各共和国（チェチェン、北オセチアなど）への渡航中止勧告および退避勧告は維持されたままです。

外務省の説明によると、「ウクライナとの国境周辺地域を除く地域の危険レベル３は維持するものの、これらの地域においては、戦争開始当初に懸念された不確実な状況とは異なり、現在、当地の情勢は全体として安定的に推移しています。そのためただし書きを変更し、真にやむを得ない事情がある場合には渡航・滞在することは妨げないこととしました。その場合には、特別な注意を払うとともに、現地の日本大使館または日本総領事館と密接に連絡を取り、十分な安全対策を講じてください。」としています。

遺骨収集、ビジネス、留学、研究調査などが可能に

ここで問題になるのは、「真にやむを得ない事情がある場合」の内容です。どのような場合が含まれるのか。一般的には、慰霊や遺骨収集といった人道目的での渡航、ビジネス、留学、研究調査、教育活動などを目的とした渡航と言われており、すでに日本企業の現地駐在員の家族で渡航を控えていた人がモスクワを訪れたり、現地日本人学校へ新任の教師が着任したりといった事例が聞かれます。

これまで日本の一部の国公立大学は、学生のロシア留学や教員の調査研究を目的とするロシア渡航を「レベル３」を理由に停止してきました。「知の探究」を目的とする教育研究機関としては本来考えられない不自由な対応が続いてきたわけですが、今回の危険情報見直しで、少なくとも教員の調査研究活動や学生のロシア留学は、安全対策に十分気を配るという前提で、解禁されるものと期待されます。



ロシア・ウラジオストクの街並み

中国経由便でロシア渡航がかなり容易になったのも追い風

もともと「レベル３」の主要な理由は、「各国による制裁やロシアの対抗措置が続いていることにより、ロシアから日本や西欧への直行便がなく、国際送金についても様々な制限があり、国際クレジットカードが利用できない状況」で、ロシア渡航に困難や不安が伴うということでした。昨年来、日本からロシアへ比較的短時間で行くことができる中国経由の航空便がいくつか飛ぶようになり、ロシアへの送金も工夫すればある程度可能になってきた状況を踏まえ、JIC では安全確保に十分気を配りながら、昨年夏にウラジオストクへのロシア語短期研修、今夏サンクトペテルブルグでのロシア語研修などを実施してきました。

今回の危険情報一部改訂を受けて、JIC ではとくにロシア語留学、ビジネスや調査研究での渡航をサポートするため、万全の体制を整えることにしています。

JIC では今夏「サンクトペテルブルグで学ぶ、短期ロシア語研修」(8 月 31 日～9 月 15 日) を 8 名の参加で実施しました。以下、参加者の皆さんからいただいた感想です。
文化都市サンクトペテルブルグでホームステイしながらのロシア語研修は、それぞれに得がたい体験となったようで、皆さんから、素敵なコメントをたくさんいただきました。(編集部)

ペテルブルグ・ロシア語研修ツアー

各参加者からの感想

それぞれに得がたい体験

初めてのロシア！ペテルブルグを探検

Atelier Tenko（テンコ）さん〔社会人〕

初めてのロシア、初めてのロシア語、初めてのホームステイで、最初は色々不安でしたが、このツアーに参加して本当に良かった！Vlogger なので動画を撮って、見たこと、やったこと、食べた物、面白かったことを全部名前付きで記録しました。見たい方は以下の URL へ↓↓
https://atelier-tenko.com/15-days-in-saint-petersburg-russia/

★留学のきっかけ

元々ロシアに興味があって行きたかったが、行き方が分からない、ロシア語も文字が読める程度で、ほぼできなかった。そこでたまたま JIC さんのセミナーに参加し、本研修の話を聞きました。チャンスは二度と来ないかもしれませんので、全ての不安を無視して飛び込みで参加させていただきました。ロシアでの滞在をより楽しめるように、行く前に自分でロシア語を A2 レベルぐらいまで上げておきました。ビザやスケジュールなどは JIC さんがしっかり見てくれましたので、終始スムーズな留学でした。向こうでは優しいホストファミリーがたくさんお話をしてくれて、学校の授業も分かりやすく、ロシア語がすごく上達しました！

★サンクトペテルブルクの街探険

学校は一日 3 時間なので、街をたっぷり自由探険できます。作品を作る人間として、ロシアの豊かな童話や民芸と歴史に特に惹かれました。現地でのアイデア探しが目的なので、自分は有名な観光地、ロシア料理店、本屋さんをメインに探険しました（見たい方は冒頭の URL で！）。探険結果、サンクトペテルブルクが想像以上に面白くて楽しかった！
サンクトペテルブルグは大きな街で観光地や博物館、お店が多い。ロシア料理も美味しかった。私の場合、一番好きなレストランはネフスキー大通りの Katyusha。一番面白いと思った場所は同じネフスキー大通りの Avrora 映画館です！

Tenko さん作・短期ロシア語研修のイラスト

★ 最後に

6 年前好奇心で適当にロシアについて調べはじめたら、調べれば調べるほど好きになって、今回やっと行けて、一つの夢が叶いました。ウクライナもロシアも素敵な所がたくさんありますので、戦争が一日も早く終わるよう祈ります。

挑戦することが若返りの秘訣

K.N さん〔６０代／社会人〕

私は現在 68 歳のシニアなので、この研修プログラムへの参加は大丈夫なのか不安はありましたが、今回 20 代の学生、30 代の社会人に交じって、共に学生気分で勉強させていただきました。言語に関しては若い方々の足を引っ張ってしまったかもしれませんが、彼らとの交流は、大変楽しく、若返り

になりました。思い切って参加して本当に良かったです。

また、ピョートル大帝夏の宮殿観光や、日本語を学ぶ学生との交流、ロシア伝統柄のまな板の絵付け、ブリヌイ（ロシア風クレープ）クッキング等の行事も楽しく参加させていただきました。

ホームステイ体験もなかなかできないことです。ホストマザーは私と同じ年齢の方でした。日本に帰ってきてからも whatsapp で時々やりとりしています。ロシア語の勉強になります。

若い方々との行動に体力的についていけるか心配でしたので、疲れ防止にビタミン剤を持っていきました。また、梅干し、即席味噌汁も持って行きましたが助けられました。

今回この研修に参加して、やってみたいことには何でも年齢関係なく挑戦することが大事だと思いました。

みんなでブリヌイのクッキング

ウラジオとペテルブルグ、それぞれの研修に参加

I.M さん〔20 代／学生〕

2024 年にウラジオストク、2025 年にサンクトペテルブルクで、計２回のロシア語研修に参加しました。どちらも約 2 週間の滞在でしたが、それぞれの街で異なる体験をし、ロシアという国の多様性を肌で感じることができました。

24 年に行ったウラジオストクでの第一印象は、「日本から一番近いヨーロッパ」でした。建物の作りや道幅の広さはロシアらしくスケールが大きく、中心部の街並みにはヨーロッパのような雰囲気を感じる。そんな景色の中で、日本車が驚くほど多く走っていることが印象的でした。トヨタ、ホンダ、日産……見渡すと、視界に入る車の７～８割が日本車ではないかと思うほどで、ふいに「近さ」を実感させられた瞬間でした。

今年参加したペテルブルクの第一印象は、「ロシアの京都」でした。帝政ロシア時代の首都として栄えたこの街には、至る所に歴史的な建築物や像が残されており、歩いているだけで過去の出来事に触れているような気持ちになります。

また、私たちが滞在していた時期はちょうど新学期の始まりと重なっていました。9 月 1 日は「知識の日」と呼ばれ、ロシアで大切にされている祭日の一つ。生徒から先生へ花を送る習慣があり、花束を抱えて街を行き交う子ども達が印象に残っています。多くの大学や教育機関が集まるこの街は、まさに歴史と学びが共存する”学生の都”だと感じました。

滞在スタイルの違いからも、それぞれ異なる学びがありました。

ウラジオストクでは大学内にある 2 人部屋の寮で過ごし、食堂での食事や、空き時間に広いキャンパスを散策する時間など、大学の中で過ごす日々を満喫できました。現地の学生や同年代の大学職員から聞くロシアの学生生活や日常生活の話は、日本とは異なるものが多く、どれも非常に興味深いものでした。

ペテルブルクでは、65 歳のホストファザーのもとで 2 週間のホームステイを体験しました。ペテルブルクの歴史やソ連時代の生活について、地元の人の視点で語られる話は、非常にリアルでした。また、私が使っていたのはかつての子ども部屋で、壁には子ども達の学校の賞状や写真がそのまま残されていて、それがウラジオストクで学生達から聞いた話と繋がり、なんだか嬉しくなりました。

街の規模や雰囲気も異なる２都市ですが、動物と人との距離感には共通したものがあると感じました。ウラジオストクの大学構内には野良犬がいて、散歩やピクニックをした際に寄ってきていました。聞くと学生達が自然に餌をあげており、「みんなの犬なんだよ」と話してくれました。

ペトロパブロフスク要塞の猫とウラジオストクの犬

ペテルブルクでは、滞在していたアパートの敷地内に猫が何匹もおり、よく車の上で休んでいました。ホストファザーに尋ねると、「誰が飼っているかわからないが、みんなで世話をしてる」と笑って答えてくれました。また、ペトロパヴロフスク要塞に行った時にも猫がいて、その話もすると、「みんなに可愛がられているが、あの子は働いている。ネズミを捕

っているんだ」と教えてくれました。ロシアの人々と動物の自然な距離感に、心が温かくなりました。

こうして人々の暮らしや温かさに触れられたことは、現地で学ぶ語学研修ならではの経験であったと感じています。

２都市での語学研修を終えて、それぞれで異なる刺激や発見、人との出会いがあり、どちらの街も私にとって大切な思い出の場所となりました。今後もさまざまなロシアの街や人々と出会い、まだ見ぬロシアの一面に触れていきたいです。

「やっぱり夏が好き！」

M.E さん〔30 代／社会人〕

私はデルジャーヴィンのロシア語研修には３度目の参加でした。

1 度目は大学生の時に今回と同じく夏の短期研修プログラムに、2 度目は昨春の短期研修プログラムに参加させて頂きました。結論から申しますと、今回のプログラムが今までで 1 番素晴らしかったです。

まずは天候です。学生時代に参加した際は、雨が多くとにかく寒くて到着早々に風邪を引いてしまいました。それに比べて今回は、比較出来ない程に天候に恵まれ、素敵な観光を沢山することができました。また、昨年の春に参加した際は、まだ雪も残っている時期で吹雪に遭うこともあり思うように観光ができなかったのですが、今回はその分まで楽しむ事ができました。

加えて、一緒に参加した皆様が本当に優しくて温かかった事がとても大きかったです。私と同じく社会人の方もいらっしゃいましたが、やはり大学生の方が多く、最初はどの様に接したら良いのか分からなかったのですが、皆さん分け隔てなく接して下さり、本当に有り難かったです。

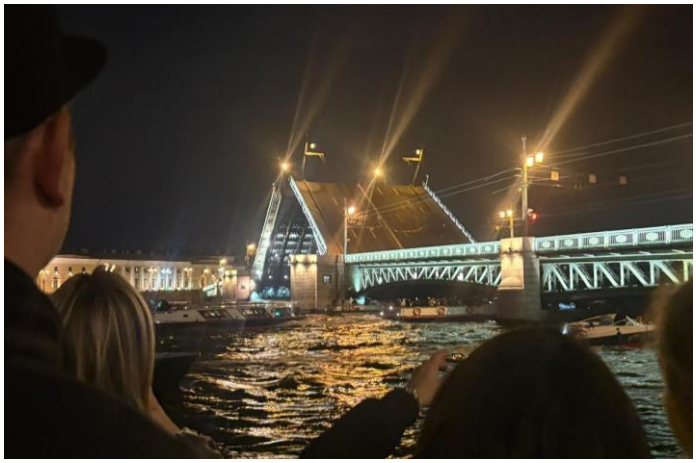
そして何より今回の旅を素晴らしいものにしてくれたのは、大好きなホストマザーの存在です。言葉には出来ない程に、優しくて素敵な方でした。毎回食事を一緒にとって下さり、沢山会話をする事ができました。生活する上での細かい面も色々と気を遣って下さり、優しさが身に染みました。あまりにも居心地が良く、日本に帰国するのが寂しくて、後ろ髪を引かれる思いでした。

サンクトペテルブルクは大好きな街で、私にとって第２の故郷だと思っています。また必ず訪れます。

温かく迎えられたペテルブルグで

K.Y.さん〔２０代／学生〕

冷酷な人々や暗い街の雰囲気といったイメージが、私のロシアに対する勝手なバイアスでした。しかし実際にその地に降り立つと、別れ際に抱き合う少女たちや談笑する学生たちの笑顔を目にし、そのイメージは誤りだったとすぐに気づきました。16 日間のサンクトペテルブルクでの研修。到着前の不安に反して、残暑の心地よい天気に恵まれ、かけがえのない時間を過ごすことができました。



ホストブラザーと観に行った дворцовый мост

最も感謝したいのは、現地の友人たちです。私は大学でロシア語を専攻しており、日本で交流を通じて知り合ったロシア人学生の友人がいました。今回の研修に参加することが決まった際彼らに連絡すると、再会を喜び多くの面で助けてくれました。特に、制裁の影響で国際クレジットカードが使えない中、自分の MNP（ミール）カードを快く差し出してくれたり、劇場や観覧船のチケットを代わりに購入してくれたりと、現地生活を大きく支えてくれました。また多忙の中でも私との観光に時間を割いてくれました。彼らと眺めた観覧船からのネヴァ川の絶景や、夜のエルミタージュの月明かりは忘れられない思い出です。

研修プログラム内の交流会で出会ったサンクトペテルブルク国立大学の学生たちにも感謝です。彼らは日本語で一生懸命話しかけてくれ、学習教材などを見せてくれた子もいました。彼らの努力の跡を目にし、同じ語学学習者として強い刺激を受けました。特に仲良くなった学生とは後日食事や散歩を共にし、大学卒業後の将来への希望や不安についても語り合いました。

なにより、この２週間の研修において最もお世話になったのは間違いなくホストブラザーでした。彼は大学を卒業したばかりのエンジニアで、日本語を学んでいます。ホームステイの手続きや生活のサポートを一手に担い、私が行きたいと

ペテルブルグ大学で日本語を学ぶ学生たちとの交流会

いった場所には、夜中であっても連れて行ってくれました。帰宅時には毎日玄関で迎えてくれ、日本語とロシア語を交えてその日の出来事や互いの国の関心事について話し、沢山笑い合いました。

街ゆく人たちの温かさにも触れることができました。駅で定期券のチャージ方法が分からず戸惑っていたとき、英語で話しかけて助けてくれる人がいたことも一度ではなく。アジア系の人々が少ない中でアウェイな気分を覚える場面もありましたが、ロシアで暮らしている様子のアジア系の女の子と目が合い、遠くからこっそり微笑みかけてくれたこともよい思い出です。そうしたささやかな出来事が温かい記憶として残っています。

私たちが日本に帰ってから、サンクトペテルブルクはとても寒くなったそうです。サンクトペテルブルグ全体からあたたかく迎えられたかのような研修だったと思います。

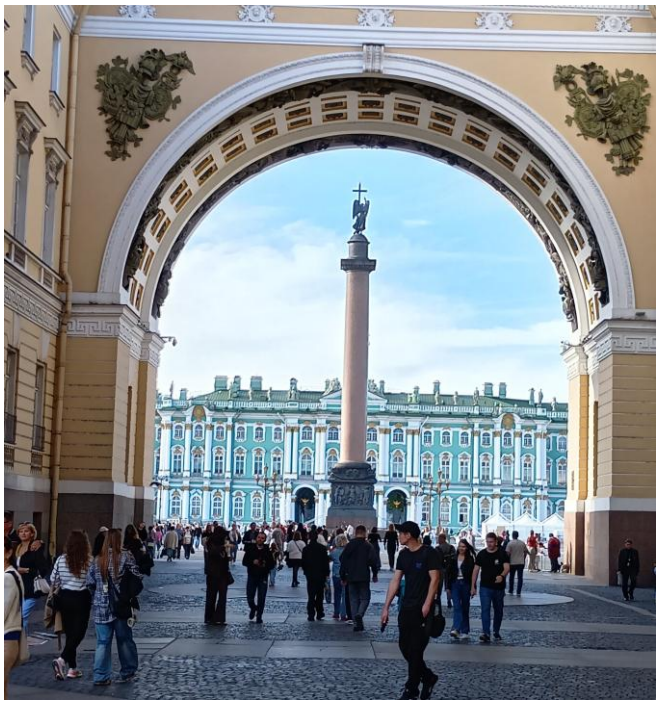
「物語と現実が交錯する街」

Y.Z さん〔 20 代／学生〕

自分はロシアには何回か行ったことはあったのですが、10 年近く行けていなかったので、今回久しぶりに行ってみようと応募しました。サンクトペテルブルグの街並みは建物や道路、人々、車、標識すべてが映画のセットのようで、それは整然としていながらも同時に非日常的で、まるで物語の中に自分が紛れ込んでしまったような感覚を覚えました。徒歩 10 分でも歩くのが億劫であった自分が、徒歩 20 分の授業への通学路さえもがあっという間の短い時間に感じられました。それは、通りごとに建物の色や雰囲気が変わり、街自体が歴史や物語を語りかけてくるようで、ただ歩くだけでも新しい発見があったからだと思います。

授業の方も n+1（自分の限界の僅かに上のレベル）を引き出してくれるような刺激的なもので、かといって長すぎるでも短すぎるでもなく、大変有意義な授業でした！ホストファミリーも自分を我が子のように可愛がってくれ、もうひとつの家ができたように感じました。

サンクトペテルブルグはドストエフスキー作『罪と罰』の舞台でもあるように文学の街です。自分自身、この作品を読んでから訪れたことで、街の印象はより深いものになりました。例えば、ラスコーリニコフが葛藤を抱えながら歩いたであろう路地や橋に足を運ぶと、彼の重苦しい心情が街の空気に染み込んでいるように感じられました。その一方で、川沿いの光や壮大な通りの広がりに触れると、彼が最後に見出した救済や再生の希望をも同時に感じ取ることができました。つまり、文学を通して歩くこの街は、ただの観光地ではなく、自分にとって「物語と現実が交錯する場所」として強く記憶に残りました。



サンクトペテルブルグ、宮廷広場

2025 年夏のロシア語研修／日程

8 月 31 日	羽田／関空発 → 上海 → ペテルブルグ着
9 月 1 日 ｜ 9 月 5 日	(午前)ロシア語研修 (午後)市内散策、クッキングレッスン、 フリータイムなど
9 月 6 日	観光～ピョートル夏の宮殿
9 月 7 日	ペテルブルグ大学学生との交流会
9 月8日 ｜ 9 月 12 日	(午前)ロシア語研修 (午後)市内散策、ロシア伝統工芸レッスン、 フリータイムなど
9 月 13 日	自由時間
9 月 14 日 9 月 15 日	ペテルブルグ発 上海着／発 → 関空／羽田着

《ロシア長期滞在に必須》銀行口座開設と国内携帯電話

外国人がロシア国内携帯電話を使えるようにする方法

小原 浩子（JIC 大阪）

2025 年 1 月から外国人がロシアの携帯電話番号を簡単に入手することができなくなってから 8 か月。今年も JIC では 9 月の新学期にモスクワやサンクトペテルブルグへ長期留学生を送り出しました。

短期間のロシア滞在であれば、ポケット Wi-Fi やローミング、E-SIM を利用したデータ通信ができれば、ロシアの国内携帯電話がなくても特に不自由はありません。しかし、長期間ロシアに滞在し生活をする場合には、かなり大きな不都合が出てきます。

一番大きな問題は、ロシアの携帯番号がなければ、ロシアで銀行口座を開設することができないことです。2025 年 7 月からロシアの法律が変わり、銀行口座を作るためには国内携帯番号の紐づけが必要となっています(一部の例外を除く)。ロシア（特にモスクワやサンクトペテルブルグなど都市部）では、今やロシア人は生活のすべての面で携帯のアプリカードまたはクレジットカードなどキャッシュレスで支払いを済ませ、現金をほとんど持ち歩きません。お店では現金の支払いも可能なのですが、お釣りを探すのに時間がかかったり、「お釣りがない」と断られたりする場合があります。そもそもオンライン決済でデビッドカードかクレジットカードでしか購入できないサービスもたくさんあるため、ロシアで銀行口座を開きキャッシュレス決済に対応しなければ日々の生活がとても不便です。

したがって、ロシアの国内携帯電話を取得し、銀行口座を開設することは、留学やビジネスで現地に一定期間以上滞在する人にとって、必須の手続きになりつつあります。

以下、この 9 月にモスクワで実際に経験した国内携帯電話を使えるようにするまでの手続きの流れを紹介します。

＜準備＞

１）パスポートの公証訳を取得

公証訳は、日本ではロシア大使館で取得できますが、料金が高く受付日も限られているため、ロシア到着後に民間の公証訳事務所に依頼するほうが便利です。通常 3～4 日で取得可能です。

２）滞在先から регистрация（滞在登録書）を取得

通常、滞在登録ができるホテルや宿泊施設では 2～3 日で出してもらえます。大学寮に入寮する場合は、1 週間程度かかることもあります。

３）事前に SIM カードを購入

SIM カードはアクティベート（有効化）されておらずそのままでは使えませんが、SIM 購入でまず携帯番号はわかります。後述する Госуслуги（公共ポータルサービス）の手続きの際に、あらかじめ携帯番号を入力しておくと、手続き後すぐに SMS で Госуслуги へのログインパスワードが届くので便利です。

＜手続き開始＞

以上の準備できたら、書類とパスポートを持って手続きを開始します

① СНИЛС（Страховой номер индивидуального лицевого счёта／個人保険番号）の取得

取得手続は МФЦ（Многофункциональный центр／多機能センター）で行います。モスクワには 130 以上の МФЦ がありますが、外国人向けサービスを提供しているのは 9 ヵ所で、それらは中心部から外れた場所にあります。

取得に必要な書類は、4 点です。(1) 所定の申請書、(2) パスポート、(3) その公証訳、(4) ロシアでの滞在登録書。申請手続きそのものは通常 10～15 分で完了するのですが、СНИЛС を取得する外国人が多いため、窓口が混みあって長時間かかることがあります。システム・トラブルで申請受付が停止され、その日のうちに СНИЛС の証明書を受取ることができなかった事例もありました。

日本人が СНИЛС を取得する場合、一つ問題があります。日本のパスポートには「出生地」の記載がなく、「本籍」のみが記載されています。СНИЛС の取得には出生地の記載が必要なため、МФЦ では СНИЛС 取得ができないと言われ、結局 СФР（Социальный фонд России／ロシア年金・社会基金)に直接行って手続きをすることになりました。しかし、他の例では本籍を出生地と読み替えて手続きができた МФЦ

もあり、事務所によって対応が違っているようです。

② Госуслуги（公共サービスポータル）のアカウント登録

Госуслуги は政府のポータルサイトです。ロシアでは、医師の診察予約、罰金の確認と支払い、給付金の申請など多くの政府サービスをオンラインで受け取ることができます。そのために Госуслуги にアカウントを持つ必要があります。

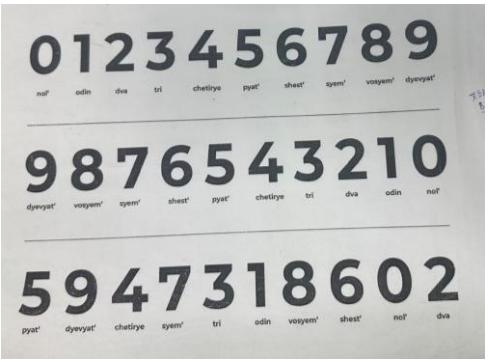
手続は、СНИЛС 取得と同様に、外国人向けサービスを提供している МФЦ で行います。Госуслуги の登録申請書に記入して、СНИЛС 証明書とともに提出し、手続き自体はわずか 5 分で済むのですが、ここでも窓口が混雑しています。この 9 月に留学生とともに手続した時は、順番待ち整理券を受け取って、3 時間待つことになりました。手続き終了後、窓口担当者は、留学生のパスポート情報、СНИЛС 番号、電話番号をシステムに入力しました。

事前に SIM カードを購入し電話番号まで登録していた場合は、システム入力後携帯電話の SMS に Госуслуги へのログイン用パスワードが届きます。Госуслуги へログインする際、СНИЛС 番号とこのパスワードを入力します。ログイン後、独自のパスワードを設定して、電話番号を認証し、アカウントが「認証済み」（Подтверждённая учётная запись）となったら、Госуслуги が利用できるようになります。

理論的には、МФЦ で СНИЛС の取得と Госуслуги のアカウント登録を同時に行うことができるのですが、実際にはそれぞれの窓口が混雑していて、この 9 月に手続きした際には同時に完了することができませんでした。

③ 生体認証データの登録:

次のステップは、銀行または携帯電話会社（メガフォン）での生体認証です。銀行では、職員が身分証明書をチェックして本人確認を行った後、顔の撮影と声の録音を行います。声の録音では表示される数字をロシア語で発音するよう求められます。



生体認証の読み上げ用紙

生体認証の費用は国のサービスのため無料ですが、銀行で生体認証を行う場合、その銀行の顧客であるという条件が付けられる場合があります。ただし顧客になるためにはロシアの携帯番号を登録し口座を作る必要があるので、鶏が先か卵が先かという問題が発生します。他にも例えば、ズベルバンク（Sberbank）では、生体認証を登録する際に系列会社 Sbermobile の SIM カード購入を強く勧めらました。ただ、ズベルバンクはロシア最大手銀行なので、ここで口座を開設しておくと、ズベルバンクのアプリは使いやすくて、いろいろな支払いができるので、確かに便利です。

携帯電話会社 Megafon（メガフォン）の場合は、Megafon の契約者であれば、生体認証の登録が可能です。担当者によると、将来的には Megafon で、СНИЛС の申請、Госуслуги への登録、そして生体認証を一度にまとめて行えるようにしたいとのことです。

④ 電話番号の確認と有効化（アクティベート）

生体認証データ登録を完了した後、Госуслуги で携帯電話番号をアクティベートします。「サイトに提供完了（услуга оказана）」の通知が届けば、5～10 分後にロシア国内携帯電話が使えるようになります。

手続きの概要は以上です。

仕組みはまだ変わる？ 常に情報更新が必要

9 月は新しい年度の始まりで、外国人学生や労働者が集中する時期であったため、携帯電話の登録を希望する外国人が多く手続きに待ち時間が長くかかっていました。まだ新しい制度であるため、システムが不安定だったり、熟達したスタッフが不足したりしているという状況もあります。

Megafon の場合、サイトで生体認証ができるオフィスを調べ、事前にコールセンターへ電話して再確認したにもかかわらず、数時間後に当該オフィスに出かけたところ、手続担当者が不在で（生体認証担当者の勤務時間が限られている／午前中のみまたは〇曜日のみなど）、生体認証ができなかったという事例も聞きました。そのほか、機器の故障もときどきあるようです。

始まったばかりの新しい制度のため、手続きの流れがクリアになっていない部分もあり、今後徐々に改善されていくことが期待されます。銀行が携帯電話会社と提携して、外国人のためのワンストップサービスを始めるという話も出てきています。

まだロシアの法制度やシステムは改変される可能性があります。これからも常に新しい情報を仕入れ、更新していく必要があります。

個人の力で面倒な手続きをすべてやり遂げるのには限界があります。JIC では、変化するロシアのシステムに柔軟に対応しながら、モスクワやサンクトペテルブルグ、ウラジオストクでのロシア国内携帯電話の取得手続きのサポート体制を整備し、長期滞在者や留学生へのケアー・支援システムを充実していく予定です。